



# showcase

## Adobe ColdFusion 導入事例

### エン・ジャパン株式会社 様

#### ユーザプロフィール

エン・ジャパン株式会社  
(en-japan inc.)

<http://corp.en-japan.com/>

本社所在地：〒163-1335 東京都新宿区西新宿6-5-1  
新宿アイランドタワー

T E L：03-3342-4506 (代表)

設 立：2000年1月

資 本 金：9億8,614万円(2013年12月末現在)

従 業 員 数：連結1,222名 単体708名  
(2013年12月末現在)



経営企画室  
情報システム部  
アプリケーショングループ  
任 恩光氏

#### 社内システムのスピード開発を実現し、現場の声へ柔軟に対応

エン・ジャパン株式会社(以下、エン・ジャパン)は、国内を代表する人材情報サービス企業です。同社は、「仕事を大切に、転職は慎重に。」というメッセージのもと、6つの求人サイトと企業の経営者・人事担当者向け情報サイトを運営。転職者が転職先で活躍して初めて成功と考え、転職の紹介のみならず、新しい職場への定着の支援も行っています。また、求人関連だけでなく、教育や人事評価などの分野についてもサービスを提供。「人材」を軸に幅広いビジネスを展開し、競争の激しい業界をリードしています。

#### 約20年にわたって開発環境として活用

「人材」にまつわるさまざまなサービスを提供しているエン・ジャパンが、Web アプリケーションの開発環境として ColdFusion を採用したのは、同社の前身である日本ブレンセンターが総合転職情報サイトを開設した 1995 年からになります。当時、Web 上でのサービスを提供する製品がほとんどない中、スピーディで柔軟な開発を実現するためには ColdFusion を使った方がベターと判断したのです。

それから約 20 年がたちましたが、同社の中での ColdFusion を使用したシステムの導入は進んでおり、今ではグループウェアや営業支援システムをはじめ、社内システムの約 9 割を ColdFusion で開発しています。

「その間、Web アプリケーションの開発環境として、さまざまなプログラミング言語が登場しましたが、ColdFusion にまさるものはなかったですね」と同社で社内システムの設計および開発・運用を担当している任恩光氏は振り返ります。

同社が ColdFusion を使い続ける理由として、「人材」業界特有の事情があります。成長産業であるがゆえに競争が激しく、しかも景気変動や法制度の改正などの外的要因により、組織・体制や業務プロセスが頻繁に変更されます。それゆえ、営業の現場を支える社内システムも状況に合わせて常にアップデートしていくことが求められますが、ColdFusion はこうした要求へ容易に対応できるのです。

#### 社内システムのスピーディな改修に威力を発揮

エン・ジャパンの主な社内システムとしては、営業支援システムとグループウェアが挙げられます。営業支援システムは、営業担当者ごとの電話や顧客訪問を記録。さらには営業プロセスの段階、前回のアクションの内容・時期、競合他社の出稿内容などを確認できる仕組みです。一方のグループウェアは、スケジュール管理や連絡事項の共有などグループウェアとしての基本的な機能に加え、日報の入力などが行えます。

こうした社内システムの開発は、前述の任氏をはじめとする経営企画室 情報システム部アプリケーショングループの技術者 5 名で行っています。また、規模に応じて、ColdFusion に精通した外部のパートナー会社に協力を仰ぐことで対応しています。

最近では、営業支援システムやグループウェアに市販パッケージを採用している企業が多いようですが、同社があえて自社開発を続けている理由は、現場の声＝エンドユーザーの要望を機能としていち早く実装していきたいという思いがあるからです。たとえば営業支援システムであれば、毎週、営業企画部門と打ち合わせを行い、現場から上がってくるアイデアの中から良さそうなものについて、直ちにシステムへ反映するようにしています。こうした即応体制をとることが、営業担当者のモチベーションの向上や業務の効率化につながっているのです。

「実は昨年、営業支援システムを市販パッケージに置き換えることを検討したのですが、今と同じレベルで現場の声へ応えていくには、かなり柔軟性の高いパッケージを導入する必要があり、TCO で考えるとかえって高くついてしまうことがわかりました。加えて修正対応のスピードを考えると、ColdFusion がはるかに有利という結論に至ったのです」と任氏は語ります。

▶ NEXT PAGE

## 習得が容易で使いやすく、管理機能も充実

開発環境として習得が容易で使いやすいのも ColdFusion の大きな特長です。

「私は入社後に初めて ColdFusion を知ったのですが、タグベースでとてもわかりやすい言語だという印象を持ちました。また、Java と違って変数の型を意識する必要もありません。Ruby、PHP、Java など、Web 系のプログラミング言語の経験が 1 年程度あれば、おそらく誰でもすぐに使えるようになると思います。私自身、入社して 3 カ月後にはグループウェアの機能の追加を担当したほどです」(任氏)。

豊富な API を備えているという点も、ColdFusion が使いやすい理由のひとつです。たとえば PDF を扱う cfpdf タグや、チャート／レポートを作成する cfreport タグ、cfchart タグなどが標準で実装されており、他のライブラリを用いずに複雑な機能を実現できます。しかも、Java など他の開発環境では、修正したプログラムをデプロイするためにはサービスを一旦止める必要がありますが、ColdFusion はサービスの提供を続けながらのリリースが可能です。

「一般に、多くの利用者があるシステムでデプロイを行う際は、利用ユーザーの少ない深夜などにサービスを止めて実施します。しかし ColdFusion ならサービスに影響が出ないため、小さなリリースは随時行っていますし、大きなリリースも昼休みの時間帯に実施しています。開発者の負荷を減らせるという点でも、利用者が必要とする機能をいち早く提供できるという点でも大助かりです」(任氏)。

また、ColdFusion が備える管理機能は、開発の効率化に役立っています。管理画面でタスクのスケジュールが設定可能な上、メールやアプリケーション、タスクスケジューラのログなどを画面上で一括管理できるからです。デバッグ機能も強力で、エラー発生時に実行された SQL を調べたり、アクセスに時間のかかるページで原因となっている SQL を特定したりできるため、システムの改善やメンテナンスを行う際にも効果的です。

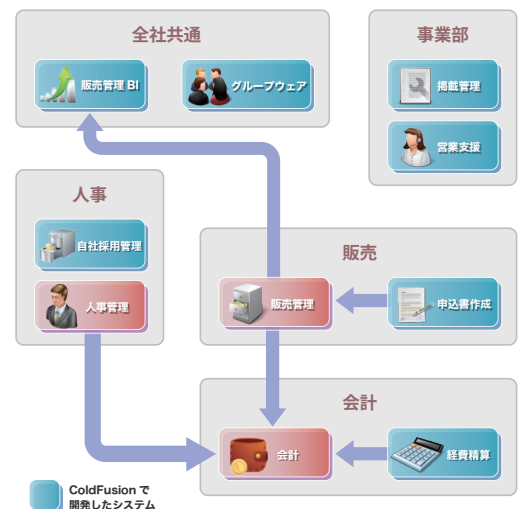
## 社内システムのWebアプリケーション化をさらに推進

エン・ジャパンでは、社内システムを開発するたびに ColdFusion を導入してきたため、現在ではさまざまなバージョンのライセンスが混在しています。もちろん必要に応じてバージョンアップも実施しており、今後も最新のバージョンに上げる予定です。

「先日も、バージョン 4.5 で動いていたシステムを最新バージョンのサーバへ移したのですが、一部を修正するだけで動かすことができ、その互換性の高さに驚きました。このように、環境の移行に手間がかからないのも、ColdFusion の特長のひとつだと思います」と任氏は評価します。

また前述の通り、同社の社内システムの約 9 割が ColdFusion で開発されていますが、残り 1 割の社内システムについても可能な範囲で ColdFusion への移行を検討しているそうです。たとえば現在、数百名の営業担当者全員に iPad が配布されており、日々の業務に活用されていますが、販売管理システムは .NET で構築されているため、Windows アプリケーションが利用できない iPad ではシステムを使うことができません。そこで、販売管理システムの一部を ColdFusion で再構築するプロジェクトも進行中とのことです。

今後も同社が、ColdFusion を活用したシステムの改善や、サービスの充実へ積極的に取り組まれることを期待します。



文中の会社名、商品名は各社の商標および商標登録です。